

地域連携教育研究

第2号

2018年2月

京都大学

学際融合教育研究推進センター

地域連携教育研究推進ユニット

目次

研究報告

- 関西文化学術研究都市における COC 地方創生事業の取組み
—グローバルな視点での社会の中の科学と教育改革— 高橋克忠 … 1
- 学校文化の地域性と起源 森田正信 … 15

論文

- 米国における高大接続の促進政策
—アーカンソー州の Advanced Placement に注目して— 郭 曉 博 … 27
- 日本と韓国における幼児教育のカリキュラムに関する比較考察
—「幼保連携型認定こども園教育保育要領」と「3～5 歳年齢別ヌリ課程」を手がかりに—
全 京 和 … 41
- 主体的・対話的で深い学びと独学の関係性に関する教育方法学的考察
—現代における独学の意義の再検討— 西 川 潤 … 55
- これからの時代における高等学校の教員研修と若手教員支援
—中堅教諭等資質向上研修とメンタリングに注目して— 太 田 堅一朗 … 69
- 公立小学校を中心とした公共施設の複合化に関する研究
—X 市における公共施設再編に向けた小学校教員の意識調査— 細 川 剛 司 … 83

研究ノート

- インドにおける「いじめ」問題とその対策
—学校内外での連携に焦点をあてて— 渡 辺 雅 幸 … 97
- 通級による指導に関する一考察
—リソース・ルームに見る連携の在り方に着目して— 白 銀 研 五 … 105
- モンゴルの大学における理事会に関する考察
—大学自治の観点から— ジャルガルサイハン・ジャルガルマー … 113
- 中国の大学評価における評価指標 張 潔 麗 … 121
- 投稿規定 …………… 129

『地域連携教育研究』第2号投稿規定

年報『地域連携教育研究』編集委員会

《編集規定》

1. 本誌は京都大学学際融合教育研究推進センター地域連携教育研究推進ユニットの機関誌として、原則として1年に1回発行する。
2. 本誌には、「研究論文」、「研究ノート」のほか、本ユニットの実践活動に関する記事等を編集掲載する。
3. 「研究論文」は、学術論文としての水準を満たすものとする。「研究ノート」は、「研究論文」に馴染まない「実践報告」「文献紹介」「海外の事例紹介」「時事評論」等を内容とする。
4. 本誌の編集のために編集委員会をおく。
5. 本誌に論文等の掲載を希望する者は、所定の論文投稿規定に従い、原稿を編集委員会に送付するものとする。
6. 投稿された論文等の掲載は、レフェリーによる査読を経て編集委員会が決定する。
7. 掲載される論文等について、編集委員会は若干の変更を加えることができる。ただし、内容に関して重要な変更を加える場合は、執筆者との協議を経るものとする。
8. 本誌に掲載された論文等の著作権は本ユニットに帰属するが、執筆者が自己の著作物を利用する場合には、本ユニットの許諾を必要としない。採択された論文等はオンラインで公開される。
9. 論文等の印刷に関して特別の費用を必要とする場合は、執筆者の負担とすることができる。

《投稿規定》

『地域連携教育研究』への投稿者は、次の規定に従う。

1. 投稿者は、(1) 京都大学大学院教育学研究科比較教育政策学講座の構成員(教授、准教授、講師、助教、大学院生および研究生)、(2) 京都大学学際融合教育研究推進センター地域連携教育研究推進ユニットの構成員(教授、准教授、特定教員、特任教員および研究員)、(3) (1)または(2)に該当する者以外で、編集委員会が特に委嘱または承認する者。
2. 「研究論文」は単著論文と共著論文を選択することができる。「研究ノート」は単著のみとする。
3. 第一執筆者として投稿できる論文は各人1本のみとする。ただし、他の者を第一執筆者とし、第二執筆者以下で論文を執筆する場合は、2本目の参加が認められる。
4. 「研究論文」および「研究ノート」は未発表のものに限る。ただし、口頭での発表およびその配布資料については、その限りではない。
5. 投稿者は、論文原稿の執筆に当たり、次の規定に従う。
 - (1) 論文原稿は横書きとし、ワープロソフト(Wordまたは一太郎)で作成する。

- (2) 表題、副題、執筆者名、本文、見出し、図、表、注、引用文献を含めて、単著論文の場合は12頁以内、共著論文の場合は24頁以内、研究ノートの場合は6頁以内とする。
 - (3) ページ設定を、余白「上30ミリ、下25ミリ、左25ミリ、右25ミリ」、46字×37行とすること。
 - (4) 表題、副題、氏名に7行をとり、本文は8行目から始める。
 - (5) 表題は中央寄せ、明朝体14ポイント、副題は中央寄せ、明朝体12ポイント、執筆者名は右寄せ、明朝体12ポイント、本文は両端揃え、明朝体（和文）またはCentury（欧文及び算用数字）10.5ポイントとする。見出し、図、表、注、引用文献に関する書式は任意とする。ただし、図及び表は、(3)の余白指定に従うこと。
6. 投稿者は、論文原稿等の提出にあたり、次の規定に従う。
- (1) エントリーの締め切りは、2017年12月20日（水）17時とする。共著論文の場合は、第一執筆者が代表してエントリーシートを提出すること。
 - (2) 論文原稿等の提出締め切りは、2018年1月31日（水）17時とする。提出物には以下の4点が含まれる。①論文原稿、②英語による論文題目、執筆者名及び所属、③英文要旨（46字×18行）④英文要旨を日本語に訳したもの。
 - (3) 論文原稿は、期日までに年報編集委員会（unitnenpo@gmail.com）にメール添付のPDF形式で提出する。
7. 投稿者には、当該論文の抜き刷りを30部無償配布するが、それ以上希望する者は原稿提出時に部数を申し出ること。なお追加分の経費については本人負担とする。

『地域連携教育研究』第2号 編集委員会

編集委員長

高見 茂 (京都大学白眉センター 特任教授)

編集委員

杉本 均 (京都大学大学院教育学研究科 教授)

南部 広孝 (京都大学大学院教育学研究科 教授)

服部 憲児 (京都大学大学院教育学研究科 准教授)

編集幹事

西川 潤 (京都大学大学院教育学研究科 博士後期課程)

英文校閲

井上 幸 (学校法人大阪学芸 法人事務局国際交流担当)

執筆者紹介

- 高橋 克忠 (京都大学地域連携教育研究推進ユニット 特任教授)
森田 正信 (国立大学法人京都大学 理事)
渡辺 雅幸 (京都大学地域連携教育研究推進ユニット 特定講師)
郭 暁博 (京都大学地域連携教育研究推進ユニット 特定助教)
白銀 研五 (京都大学大学院教育学研究科 博士後期課程)
全 京和 (京都大学大学院教育学研究科 博士後期課程)
ジャルガルサイハン・ジャルガルマー
(京都大学大学院教育学研究科 博士後期課程
／日本学術振興会特別研究員)
西川 潤 (京都大学大学院教育学研究科 博士後期課程
／日本学術振興会特別研究員)
張 潔麗 (京都大学大学院教育学研究科 修士課程)
太田堅一郎 (京都大学大学院教育学研究科 研究生)
細川 剛司 (京都大学大学院教育学研究科 研究生)

地域連携教育研究 第2号 (非売品)

2018年2月28日 印刷

2018年2月28日 発行

編集・印刷 京都大学大学院教育学研究科
学際融合教育研究推進センター
地域連携教育研究推進ユニット
京都市左京区吉田本町 (〒606-8501)
TEL 075-753-3014

印刷 株式会社 太洋堂
京都市右京区西院上花田町4
(〒615-0007)
TEL 075-323-9329
FAX 075-322-4576
E-mail: rms@love.co.jp

Journal of Education and Research for Regional Alliances

Vol. 2

CONTENTS

Reports

- Present Status and Future Perspectives of Keihanna Science City based on the Results of Investigation
Obtained in the COC Programs Performed in View of “Science for Society and Science in Society”
Katsutada TAKAHASHI ... 1
- Regional Characteristics and Origins of School Culture in Japan
Masanobu MORITA ... 15

Article

- Promotion Policy of the Articulation between Upper Secondary Schools and Universities in the USA:
Focusing on the Advanced Placement Program in Arkansas
Xiaobo GUO ... 27
- A Comparative Analysis of Curricula in Early Childhood Education in Japan and Korea:
Focusing on the National Curriculum Guidelines for Integrated-type Certified "Kodomo-en" School and the
Nuri-Curriculum for 3-5 year olds.
Kyoung-hwa JEON ... 41
- A Study on the Relationship between Proactive, Interactive and Deep Learning and Self-Study from the
Viewpoint of Educational Methods:
Reconsideration of the Significance of Present Day Self-Study
Jun NISHIKAWA ... 55
- Teacher Training and Young Teacher Support for High School in The Coming Years:
Focusing on “Training to Improve the Qualities of Mid-Level Teachers” and “Mentoring”
Kenichiro OTA ... 69
- Research on Complexation of Public Facilities in Public Elementary Schools:
Survey on Consciousness of Public Elementary School Teachers toward Reorganization of Public Facilities
in X City
Koji HOSOKAWA ... 83
- ### Notes
- The Current Situation of "Bullying" Problems and Its Measures in India:
Focusing on Collaboration Both Inside and Outside the Schools.
Masayuki WATANABE ... 97
- A Study on the Tsukyu approach in Japan:
Focus on collaboration in resource room practices.
Kengo SHIROGANE ... 105
- Consideration on Board of Trustees at Mongolian University:
Focusing on the viewpoint of University Autonomy
JARGALSAIKHAN Jargalmaa ... 113
- The Evaluation Index of China University Evaluation
Jieli ZHANG ... 121

Center for the Promotion of Interdisciplinary Education and Research
Education and Research Unit for Regional Alliances

Kyoto University

February 2018